

少年

第434号(1) 令和4年5月(皐月)発行



山梨県警察本部
生活安全部 少年・女性安全対策課
甲府市丸の内1-6-1
055-221-0110 内線3082
少年対策官 北原宏明

森林の役割

5月になり、新緑の美しい季節となりました。山梨県内では、どこにいても緑色が目に入ってきます。それもそのはず、山梨県は県土面積の78%（34万7千ha）を森林が占め、森林率は全国第5位の森林県なのです（山梨県庁HPより）。このことから山梨県は森林が豊かであるといえます。

ところで、森林にはどのような役割があるのだろうか？森林の役割には木材の生産だけでなく、土砂災害を防いだり、農業・生活用水を蓄えたりする働きがあります。また、二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防ぐ役割もあります（中学生の地理（教科書）帝国書院）。さらには、豊かな森林によってつくられた養分を蓄えた土が河川によって海に運ばれ、豊かな海をつくる役割があるといわれています。一見、森林と海の豊かさは直接関係がないように思われますが、実は豊かな森林と豊かな海には深い関係があるのです。

このような関係性は私たちの人生にも当てはまるのではないかと。例えば、自分の将来の夢を叶えるためには関係ないと思っていた学びが実は深いかかわりがあったり、自分とは価値観の違う人とのかかわりが、これからの自分の人生を支えたりすることもある。「この分野の学習は自分には必要ないことだから」とか「あの人とかかわっても意味がないから」と簡単に決めつけずに、広い視野をもち、さまざまな人との出会いやかかわりを大切に、豊かな人生を送りたいものです。

人間は考える葦である

これは17世紀フランスの思想家パスカルのことばである。彼は代表作「パンセ」の中で、「人間は自然の中では最も弱い一茎の葦にすぎない。だが、それは考える葦である」と述べている。葦とは水辺に生えるススキに似たイネ科の多年草である。

確かに人間は自然の中では弱く小さい存在である。とりわけ日本は災害大国である。毎年のように発生する大きな地震や大雨による土石流、河川の氾濫などにより、今まで多くの尊い命が奪われてきた。これらの自然災害の脅威に対して私たちはなすすべもなく、その度に改めて自然の厳しさや恐ろしさを思い知らされる。

だが、私たち人間は、頭を使ってさまざまなことを考えることができる。この考えるということは人間に与えられた能力であり、この力を使って私たちはさまざまな自然災害などの困難を乗り越え、進化し続けてきた。

さて、みなさんは最近、物事を深く考える時間が減ってはいないだろうか？浅田次郎さんのエッセイ集に興味深い記述があった。

〈略〉ところで、このごろ私たちが、急激に想像力を喪失していることにお気づきだろうか。実に急激に、である。

ぼんやりと物思うことがなくなった。書物や新聞が、SNSやゲームに入れ替わっただけではなく、多くの人々が物思う時間を掌（てのひら）の中の小さなロボットに奪われてしまった。

〈略〉もしや私たち人類は鋼鉄の手足を持たず、強力な兵器も備えていない善人ヅラのロボットに、地球を乗っ取られてしまったのではあるまいか。先祖たちが何千年もかけて、堂々と築き上げてきた文明を。

想像は創造の母である。どうしてもよきそうな想像を掻き集め積み重ねた混沌の中から、創造という行為が生まれる。物を考えずに何か造り出されるなどありえない。

想像する時間を奪われ、急激に想像力を喪失した人類は、やがてごく特定の分野を除いて、恐らく正当な創造を停止すると思われる。〈略〉

浅田次郎「見果てぬ花」〈小学館〉

これを読んでハッとした人はいないだろうか？近年ICTの進化は著しく、教育現場においてもGIGAスクール構想により一人一台端末が整備されつつある。今やコンピュータやスマートフォンのある生活は当たり前となった。わからないことがあれば、インターネットの検索を利用すれば深く考えることなくあっという間に答えを導き出すことが可能となった。しかし、世の中にはインターネットの検索で調べてもすぐに答えを出ることができないこともある。物事を調べる手段としてICT機器を活用する能力を身につけることは、これからの予測困難な社会を生き抜くためには必要不可欠である。しかし、それだけに頼り、自分自身で深く考えることを止めてしまえば、エッセイのように小さなロボットに自分の考えを支配されてしまうことにつながらないだろうか。

エッセイの最後はこう締めくくられている。「人間は考える葦である。すなわち、考えてこそ人間である」と。

刑法犯少年の検挙人員は、減少傾向にあるものの、依然として少年による、社会の注目を集めるような凶悪事件は後を絶ちません。本県の傾向として特に気になる点は、刑法犯少年の再犯者率と共犯率です。非行少年の背景には、「少年自身の規範意識の低下やコミュニケーション能力の不足」「家庭や地域社会の教育機能の低下」、「少年が自分の居場所を見出せず、孤立し疎外感を抱いている現状」等が見られ、こうした問題の解決に関しては、社会全体で取り組む必要があります。

次代を担う少年の健全育成を図るため、次の2本柱を中心に「非行少年を生まない社会づくり」を推進しています。

① 少年に手を差し伸べる立ち直り支援活動

警察が悩みや問題などを抱えている少年や保護者に対して、積極的に連絡を取り、必要に応じて支援を申し出ます。支援を求める少年については、教育委員会、学校、就労支援機関等の関係機関やボランティア等とも連携し、

◇ 定期的な連絡・相談、家族への助言 ◇ 就学・就労に向けた支援

◇ 少年が参加する社会奉仕体験活動・生産体験活動等の機会の供与

などを行い、立ち直りを支援します。

具体的な活動として、山梨県教育委員会生涯学習課が行っている事業を紹介します。

スマイルサポートプロジェクト (通称：スマサポ) ～少年サポートネット推進事業～

【問題を抱えた少年の立ち直り支援】

・問題行動 ・SNS、ゲーム依存 ・犯罪被害 ・家庭内暴力 ・不登校 etc.



スマサポ支援の4本柱



◎第1 体験活動

農業体験、物作り体験、料理実習、軽スポーツなど様々な体験活動

◎第2 学習支援

支援コーディネーターによる個別指導、学生ボランティア等と連携した学習支援

◎第3 就学支援

面接の練習、職業体験、相談機関とも連携した就学支援

◎第4 家庭支援

生活習慣の改善、子供・保護者への相談、面接等、良好な家庭環境構築のための家庭支援



困っていない？
支援を必要と
していない？

【お問合せ】少年サポートネット推進事業《事務局》

山梨県教育委員会 生涯学習課 青少年保護育成担当 TEL 055-223-1357

② 少年を見守る社会気運の醸成

社会全体として、少年の特性や非行に走る要因・背景等について理解を深め、少年が孤立し非行に走ることのないよう、地域全体で厳しくも温かい目で見守る気運を醸成するため、

◇ ボランティア等の協力を得た通学時等の声掛け・あいさつ運動

◇ 低年齢の少年及び保護者に対する非行防止並びに規範意識向上教室

◇ 万引きや自転車盗等を防止するための官民連携した対策